

世界で一つだけのみかん

大阪府茨木市立中津小学校 五年 堀河 えみり

わたしの家では冬になれば必ず朝食のみかんがでてきます。お母さんはたくさんみかんを買って来てくれて、どのみかんもあまくてとてもおいしいのです。

今回、学校でもらったみかんもやわらかくて、ちよつとあまずっぱくて、とてもおいしいみかんでした。かめばかむほどにみかんの果汁がぶわあっと口の中で広がって、よくよく味わってみると、みかんの味はこんなにもおおくが深いんだなと感じました。みかんを食べているときふと思ったのが、みかんの皮ってどんな味なのかということでした。せつかくだから少しだけ食べてみると、みかんの果肉とは反対に、苦みがおしよせてきました。でもこの苦みはまずさではなく、みかん農家の深い愛情がふくまれている苦みだと思い、その苦みもしっかりと味わって食べました。

わたしのおばあちゃんは今昔からもをつくっていて、作ったももや、他の果物もいっしょに大量に送ってきてくれます。おばあちゃんはかなり長生きしてくれていて、たくさん送ってきてくれるけど、食育副読本を見て、日本の果物を守らないといけない、日本の農作物の消費者として、しっかりと責任を持つことを自覚しないとけないということを強く思いました。

それぞれに色も形も大きさも重さもちがう、世界で一つだけのみかんを、しっかりと味わって食べていくことが、日本の農作物を守るための応えんにつながってゆくと思います。作って食べるという一連の流れを、全国各地に広げてゆくために、自分たちができることだと思います。たくさんさんの工程をふみ、たくさんさんの手におったみかんには、きつとたくさんさんの人の思いがこめられているから、それを受けとめて味わっていくことが、日本の農作物を守るときに大切なことだとわたしは思います。